

## 第八章 文系・理系別の集計

# 第八章 文系・理系別の集計

## (1) 文系・理系別の就職活動の内容

### ①文系・理系別の企業説明会やセミナー等の参加状況

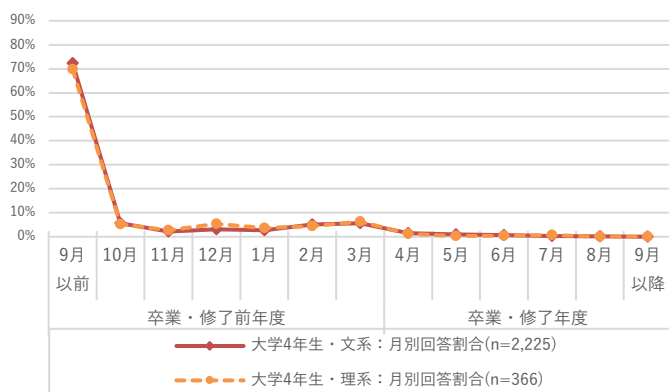
文系・理系別※1に、企業説明会やセミナー等の参加状況について集計すると、大学4年生では、「最初に参加した時期」は文系・理系で概ね同様となっており、「参加のピーク」「最後に参加した時期」は理系の学生の方が早期の回答割合が若干高くなっている。

※「まだ参加していない・参加する予定もない」と回答した者は、集計の対象外とした。

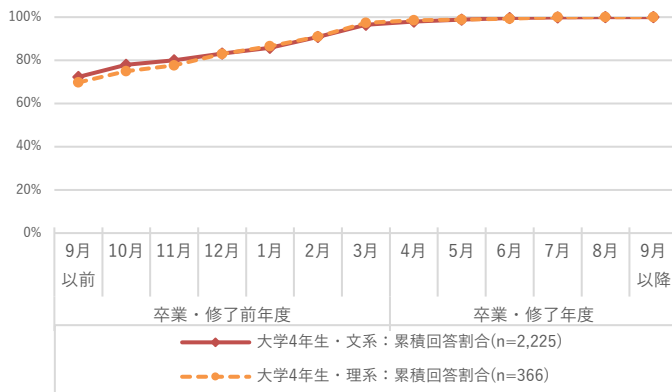
#### 大学4年生

#### 最初に参加した時期

##### 月別回答割合

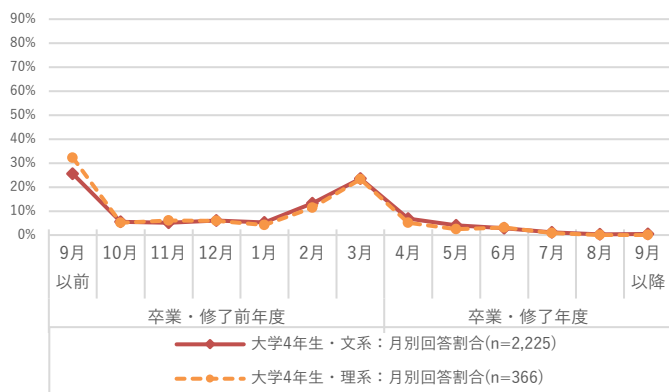


##### 累計割合

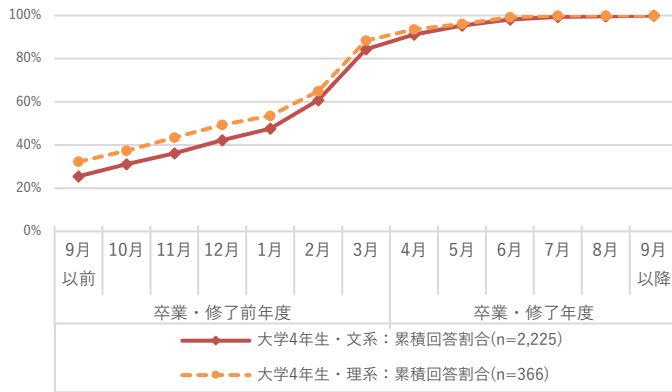


#### 参加のピーク

##### 月別回答割合

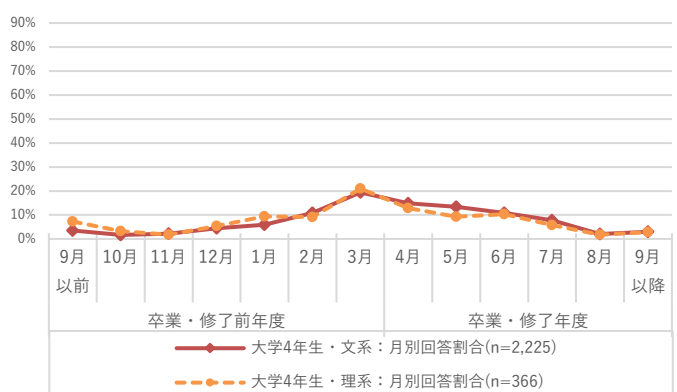


##### 累計割合

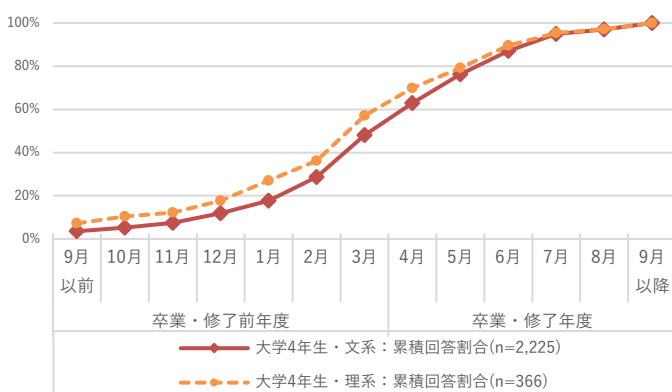


#### 最後に参加した時期

##### 月別回答割合



##### 累計割合



※1: 「人文科学」、「社会科学」、「情報」、「家政」、「教育」、「芸術」、「その他」を「文系」とし、「理学」、「工学」、「農学」、「保健」、「商船」を「理系」としている。

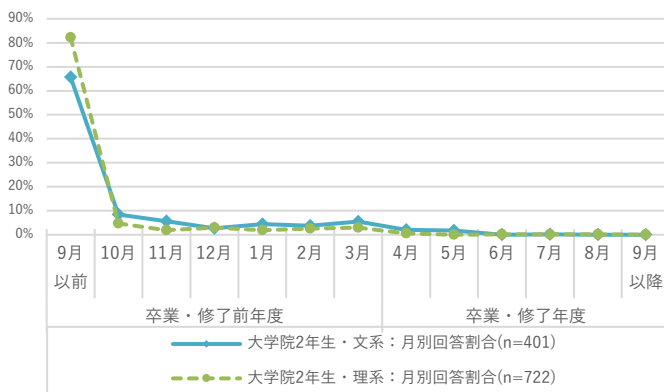
## ①文系・理系別の企業説明会やセミナー等の参加状況

大学院2年生では、「最初に参加した時期」「参加のピーク」「最後に参加した時期」いずれも理系の学生の方が早期の回答割合が高くなっている。「最後に参加した時期」は修了前年度11月までは文系・理系で概ね同様となっているが、修了前年度12月以降は理系の学生の方が早期の回答割合が高くなっている。

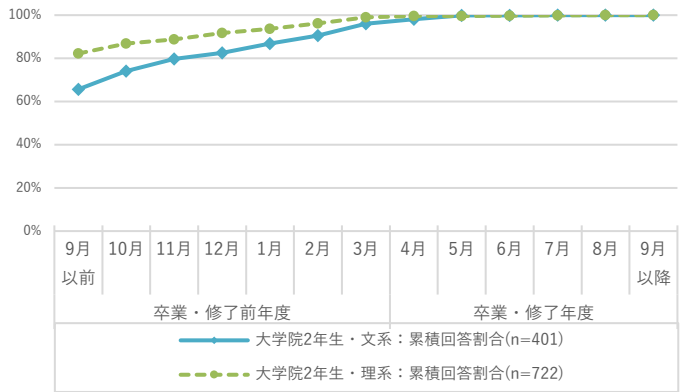
### 大学院2年生

#### 最初に参加した時期

##### 月別回答割合

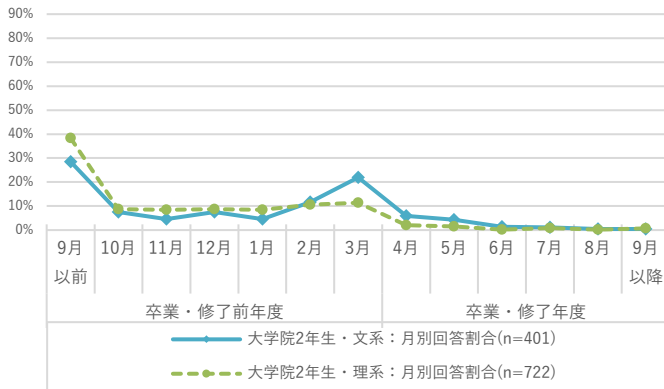


##### 累計割合

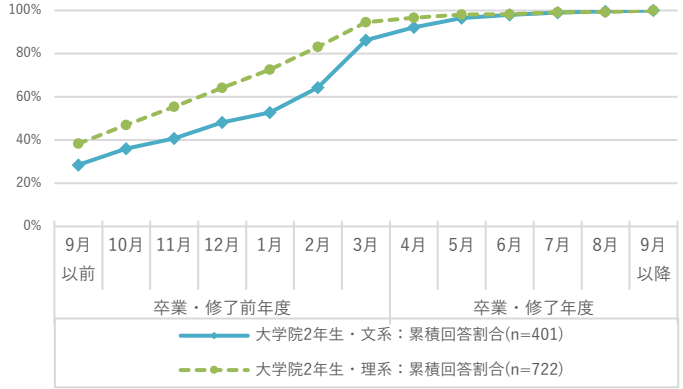


#### 参加のピーク

##### 月別回答割合

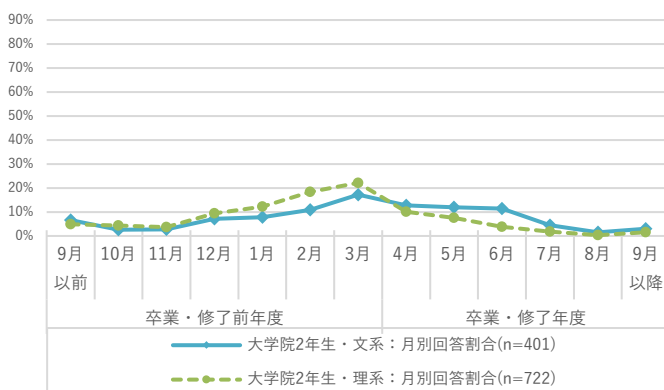


##### 累計割合

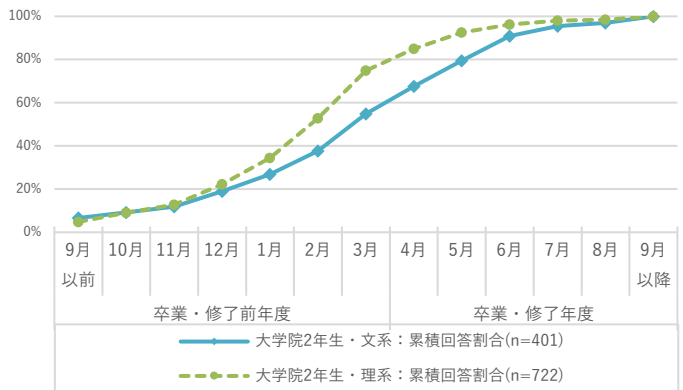


#### 最後に参加した時期

##### 月別回答割合



##### 累計割合



## ②文系・理系別のエントリーシートの提出状況

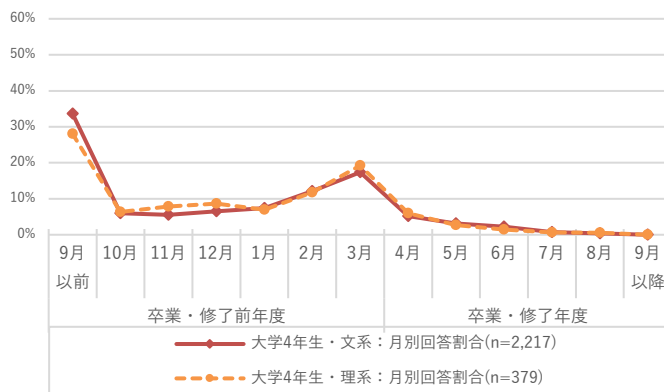
文系・理系別に、エントリーシートの提出状況について集計すると、大学4年生では、「最初に提出した時期」は、卒業・修了前年度11月以前は文系が若干高くなっているものの、12月以降は文系・理系で概ね同様となっており、「提出のピーク」「最後に提出した時期」は理系の学生の方が早期の回答割合が若干高くなっている。

※「まだ提出していない・提出する予定もない」と回答した者は、集計の対象外とした。

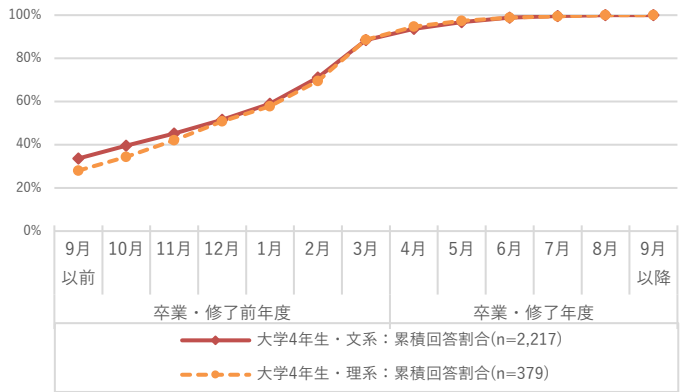
### 大学4年生

#### 最初に提出した時期

##### 月別回答割合

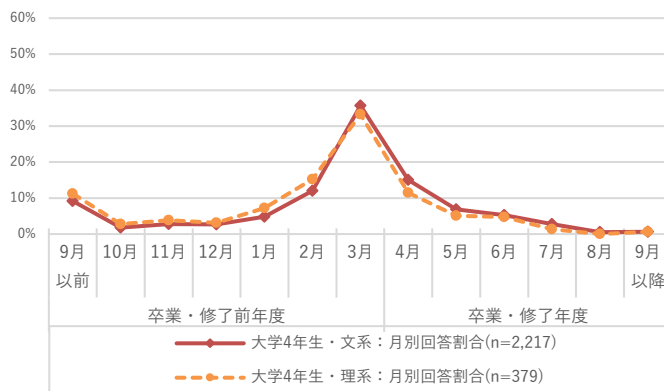


##### 累計割合

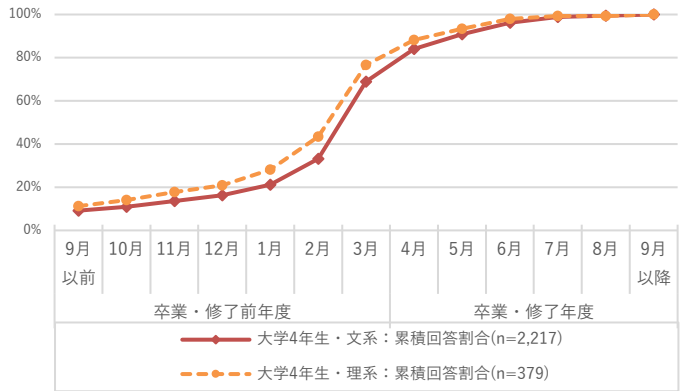


#### 提出のピーク

##### 月別回答割合

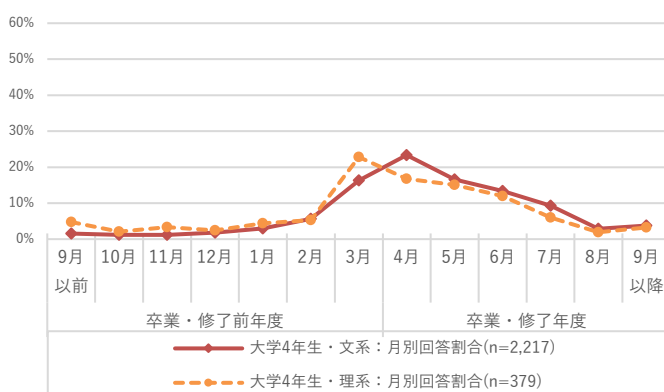


##### 累計割合

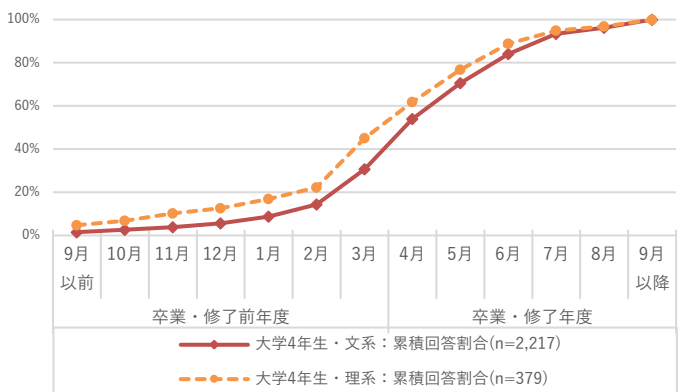


#### 最後に提出した時期

##### 月別回答割合



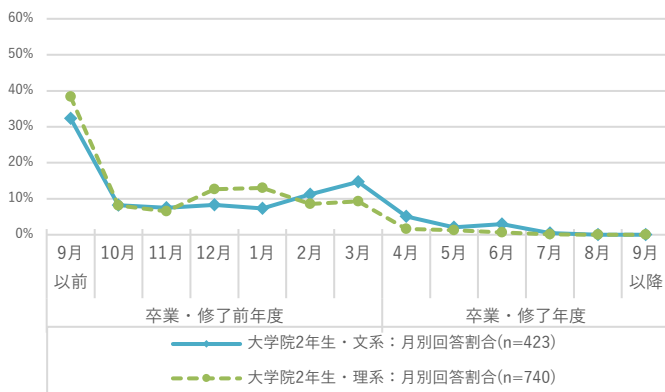
##### 累計割合



## ②文系・理系別のエントリーシートの提出状況

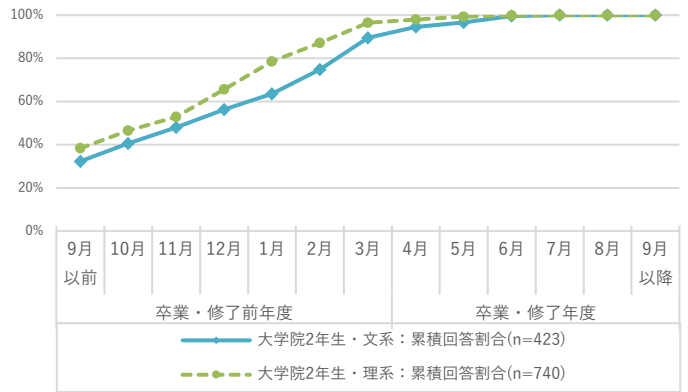
大学院2年生では、「最初に提出した時期」、「提出のピーク」、「最後に提出した時期」いずれも理系の学生の方が早期の回答割合が高くなっている。

大学院2年生  
月別回答割合

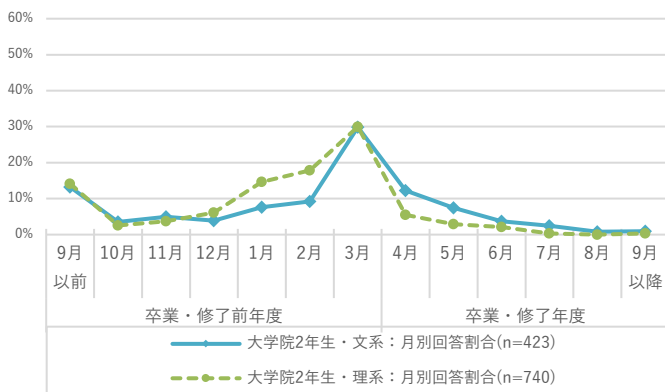


最初に提出した時期

累計割合

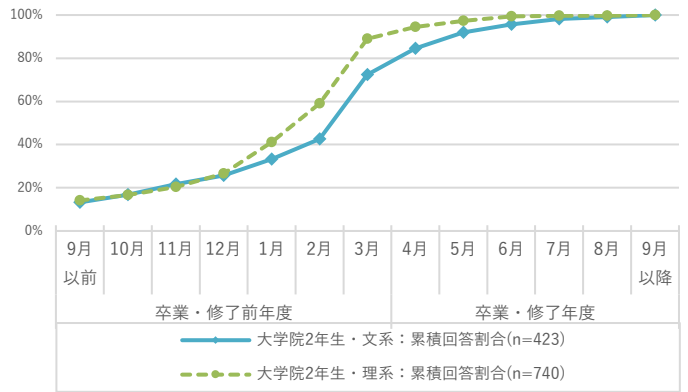


月別回答割合

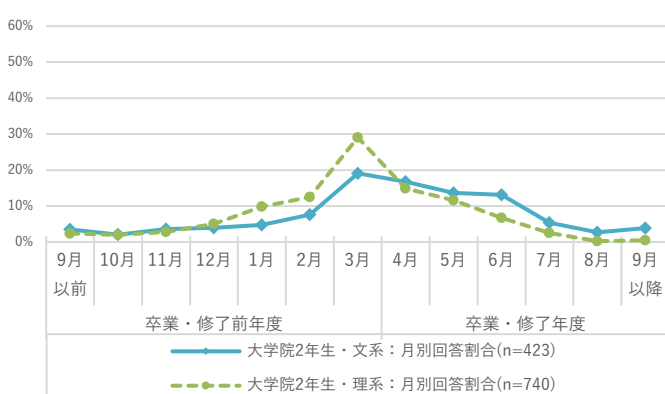


提出のピーク

累計割合

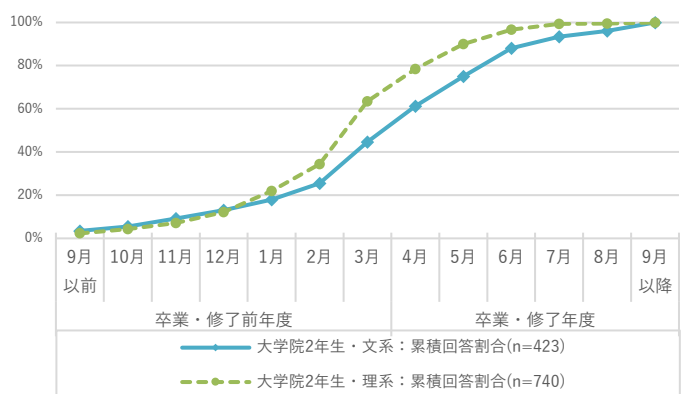


月別回答割合



最後に提出した時期

累計割合



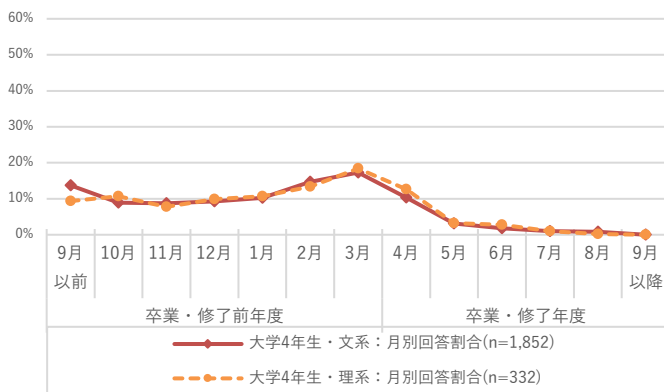
### ③文系・理系別の採用面接の実施状況

文系・理系別に、採用面接の実施状況について集計すると※1、大学4年生では、「最初に受けた採用面接の時期」は文系が若干高くなっているが、「採用面接のピーク」「最後に受けた採用面接の時期」は理系の学生の方が早期の回答割合が若干高くなっている。

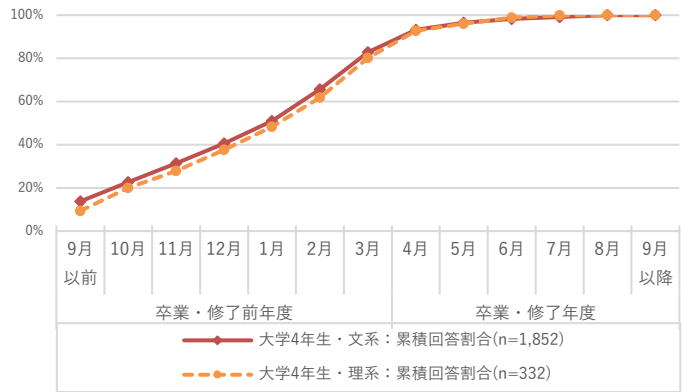
#### 大学4年生

#### 最初に受けた採用面接の時期

##### 月別回答割合

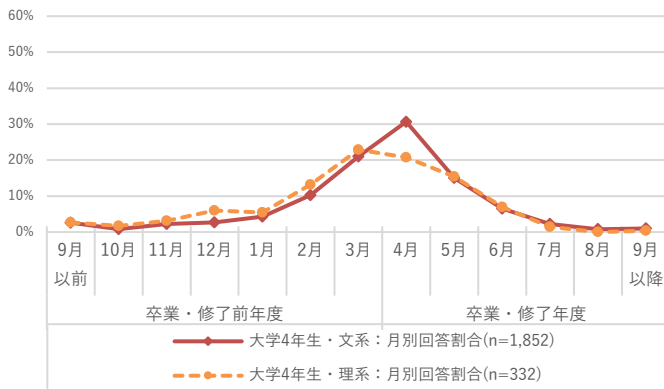


##### 累計割合

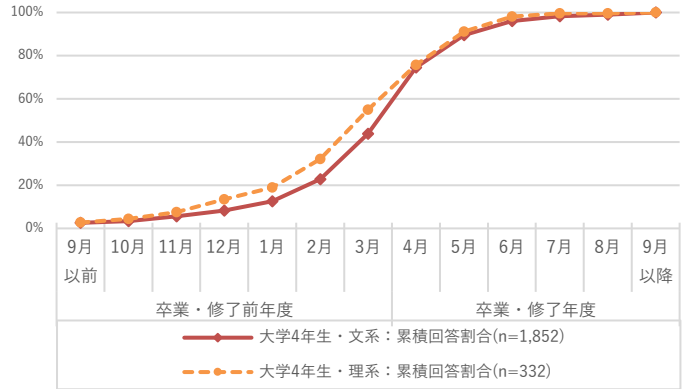


#### 採用面接のピーク

##### 月別回答割合

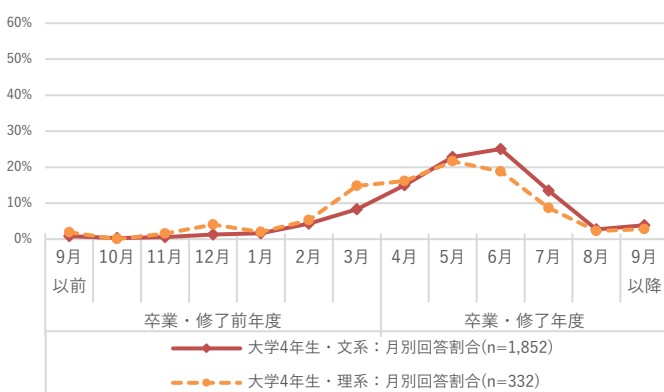


##### 累計割合

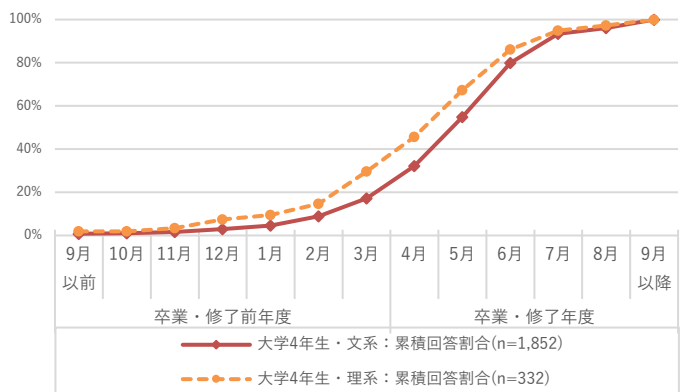


#### 最後に受けた採用面接の時期

##### 月別回答割合



##### 累計割合



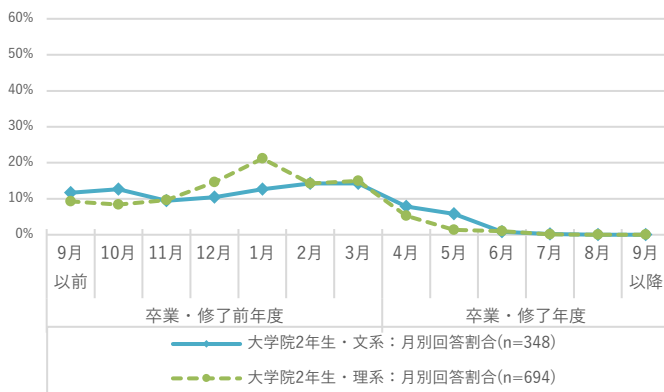
※1：公務員や教職員志望者に関しては、調査実施時点で採用の面接等が行われていないと想定されたことから、ここでは集計の対象外とした。また、その上で、「まだ参加していない・参加する予定もない」と回答した者は集計の対象外とした。

### ③文系・理系別の採用面接の実施状況

大学院2年生では、「最初に受けた採用面接の時期」は修了前年度の1月以降、「採用面接のピーク」については2月以降、「最後に受けた採用面接の時期」については3月以降の時期において、理系の学生の方がより早期の回答割合が高くなっている。

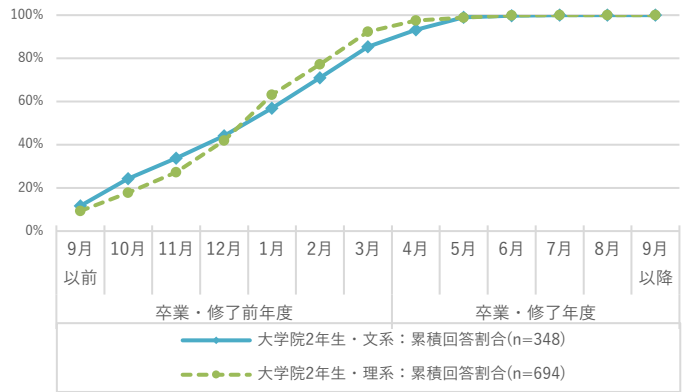
#### 大学院2年生

#### 月別回答割合



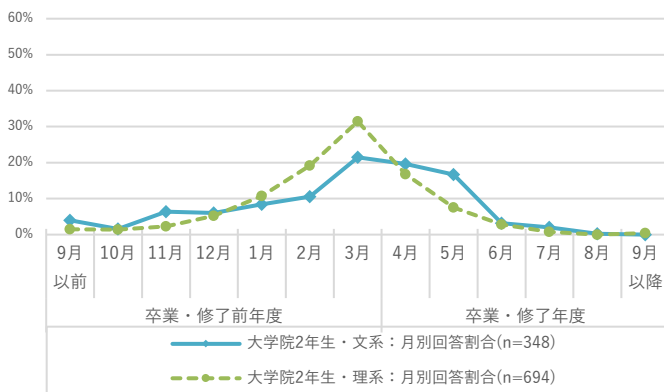
#### 最初に受けた採用面接の時期

#### 累計割合

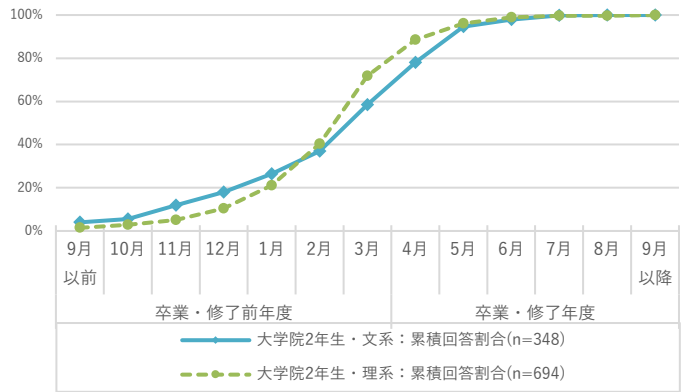


#### 採用面接のピーク

#### 月別回答割合

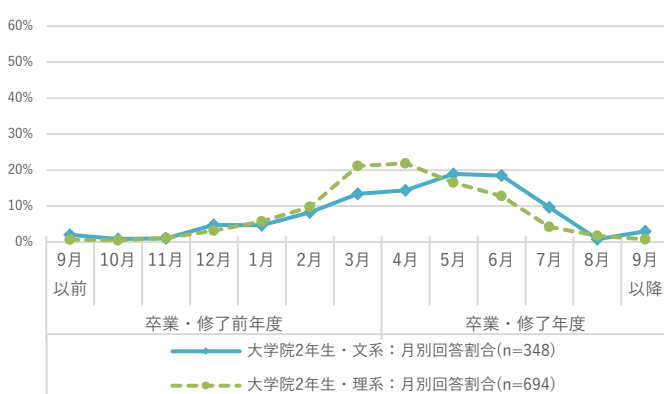


#### 累計割合

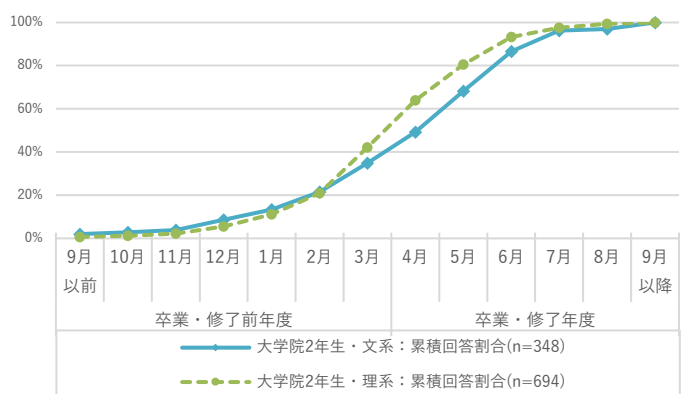


#### 最後に受けた採用面接の時期

#### 月別回答割合



#### 累計割合



#### ④文系・理系別の内々定を受けた時期

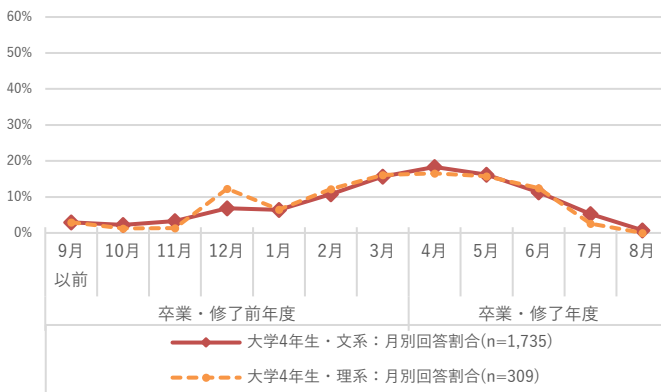
文系・理系別に、最初の内々定を受けた時期について集計すると ※1、大学4年生では、文系・理系ともに卒業年度の4月の割合が最も高くなっている。

大学院2年生では、文系の学生は修了年度の4月、理系の学生は修了前年度の3月の回答割合が最も高くなっている。

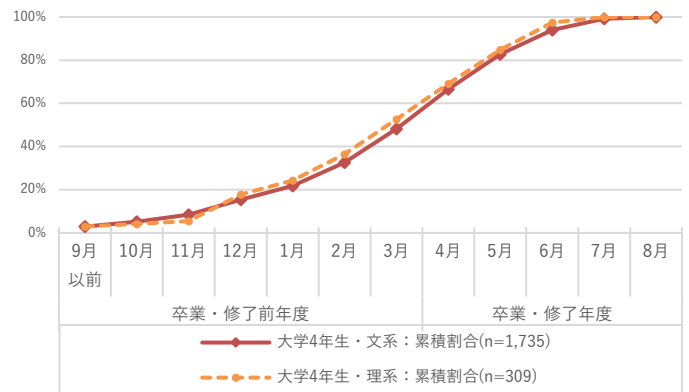
##### 大学4年生

##### 最初に内々定を受けた時期

###### 月別回答割合

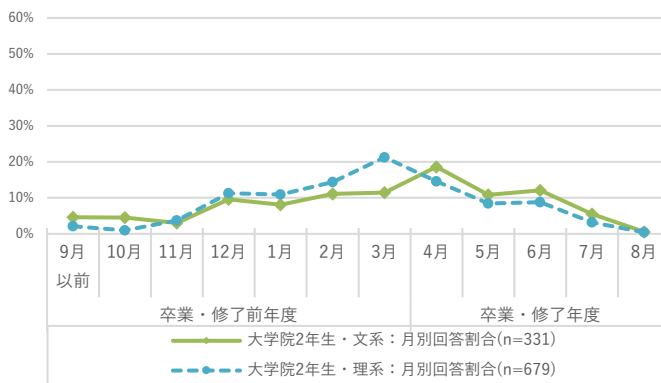


###### 累計割合

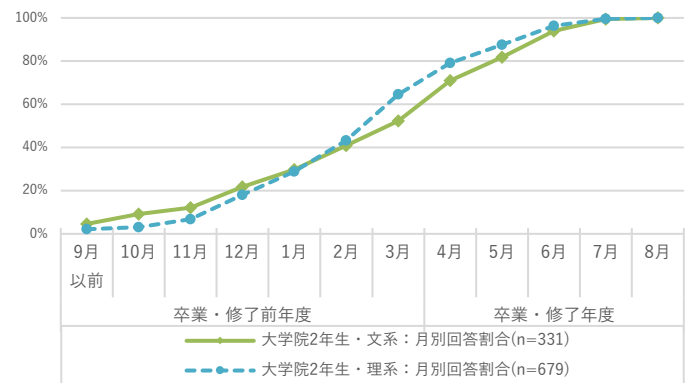


##### 大学院2年生

###### 月別回答割合



###### 累計割合



※1：1社から内々定を受けた者はその時期について、複数社から内々定を受けた者は最初に内々定を受けた時期について集計した。  
 なお、ここでの集計でも、公務員及び教職員志望者は除いて集計を行った。また、内々定を「まだ受けていない」と回答した者は集計の対象外としている。



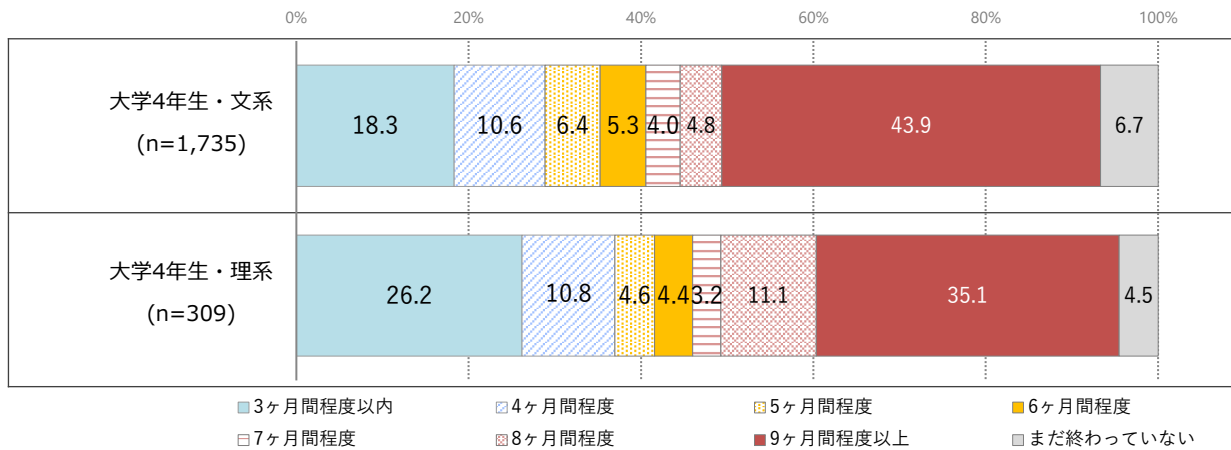
## ⑤就職活動の始まりから終わりまでの期間

文系・理系別に、「就職活動が始まったと考える時期」から「就職活動が終わったと考える時期」までの期間※1を集計すると、大学4年生に関しては、理系の学生の方がより短い期間の割合が高くなっている。

大学院2年生については、理系の学生は「9ヶ月間程度以上」の割合が約5割と高く、「3～4ヵ月間程度」で約17%。文系の学生は「9ヶ月間程度以上」の割合が約4割、「3～4ヵ月間程度」で23%と、文系の学生の方が短い期間の割合が若干高い傾向が見られた。

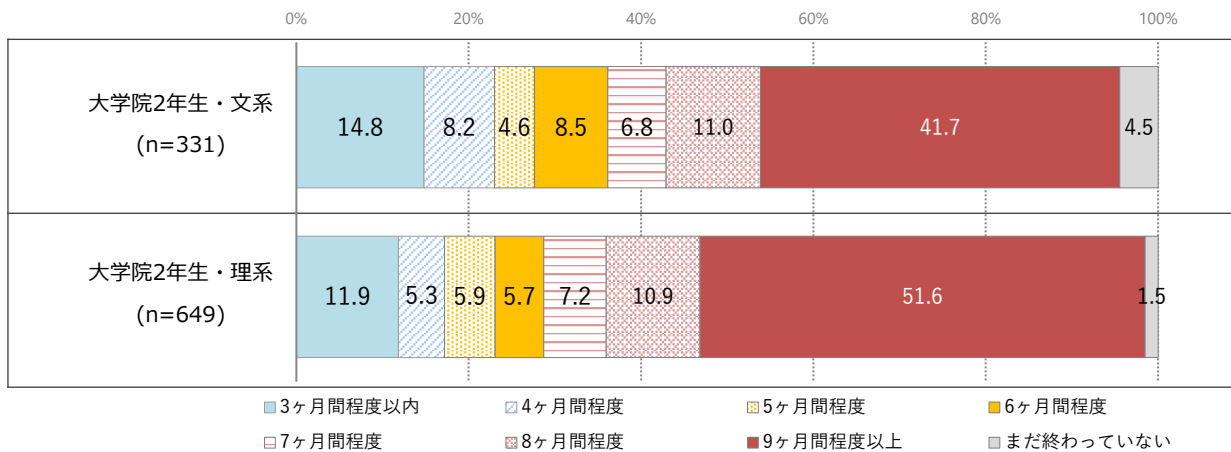
### 大学4年生

※公務員・教職員志望者除く



### 大学院2年生

※公務員・教職員志望者除く

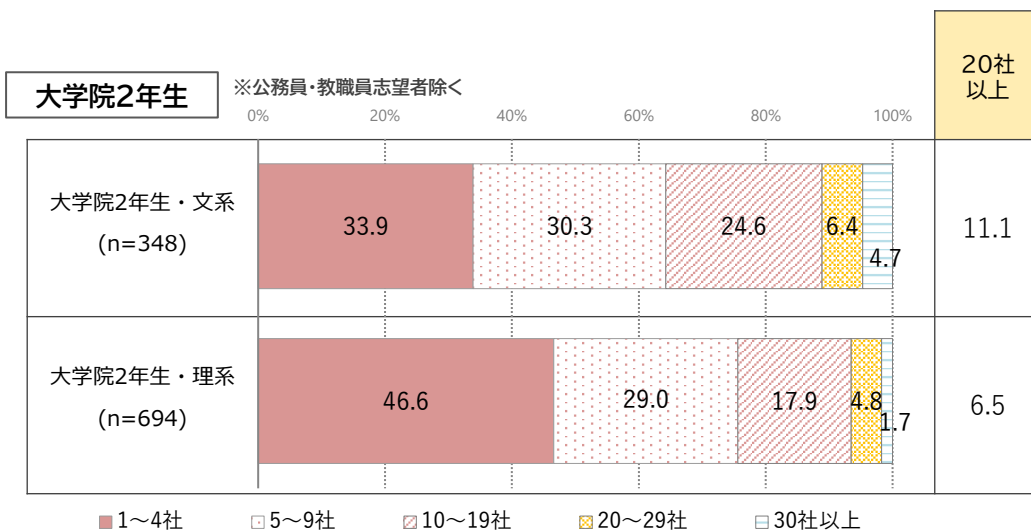
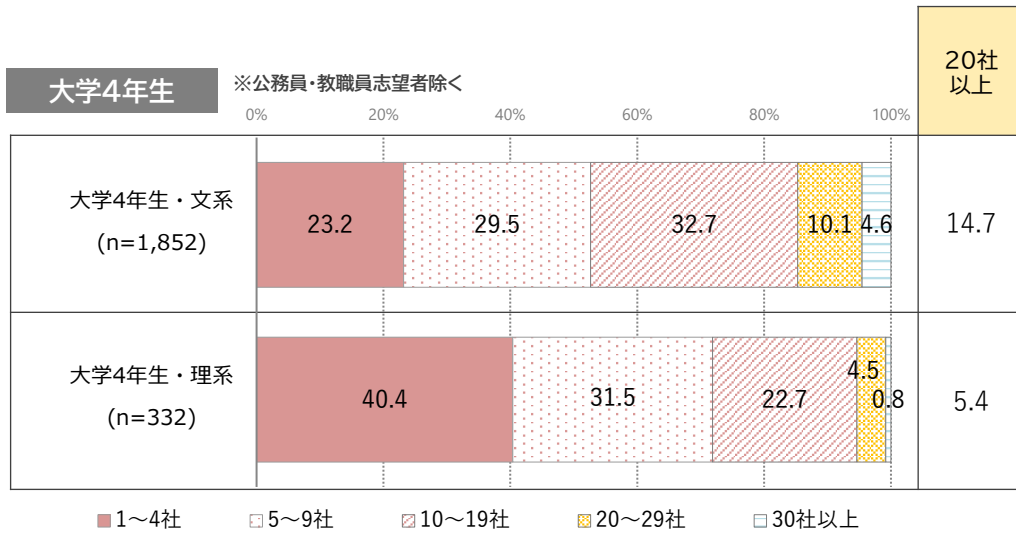


※1：ここでの集計において、「3ヶ月間程度」とは、例えば、「就職活動が始まったと考える時期」が3月、「就職活動が終わったと考える時期」が6月というように、両者の差が3ヶ月であることを意味する。したがって、「1ヶ月間程度」の分類には、最短で2日間、最長で約60日間の場合が含まれる。一方で、「同月内」の場合であっても実質的には最長で30日間である可能性もある。なお、最初と最後の月から計算しており、途中の期間に就職活動を行っていない可能性があるなど、必ずしも就職活動を行っていた実際の期間を意味するものではない点に留意が必要である。

公務員及び教職員志望者は除いて集計を行った。

## ⑥採用面接を受けた企業数

文系・理系別に、採用面接を受けた企業数について集計すると、大学4年生・大学院2年生ともに、「1～4社」の回答割合は、理系の学生の方が高く、特に大学4年生に関して、その差は大きくなっている。20社以上の採用面接を受けた者の割合についても、大学4年生では顕著に差があり、文系が15%に対して、理系は5%となっている。

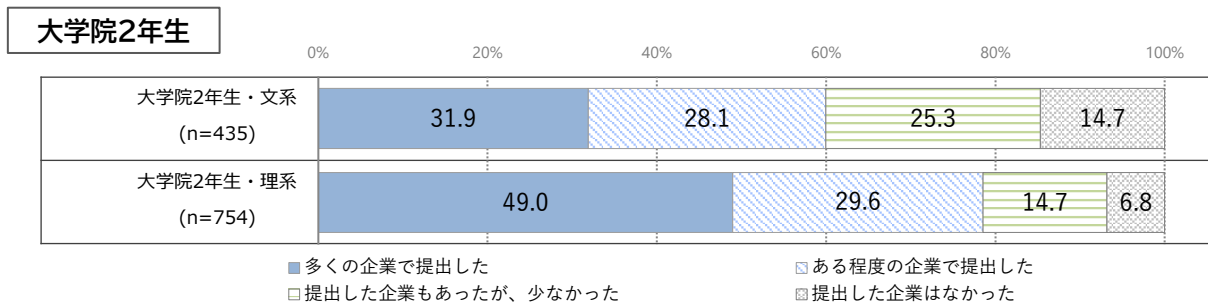
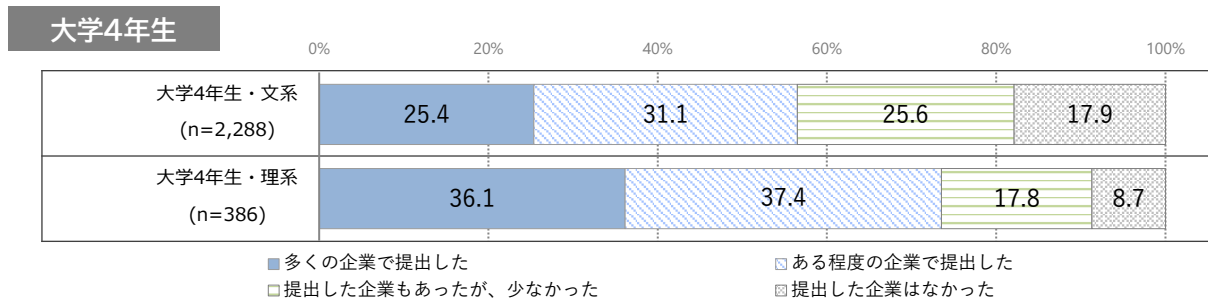


## ⑦文系・理系別の学業重視の選考

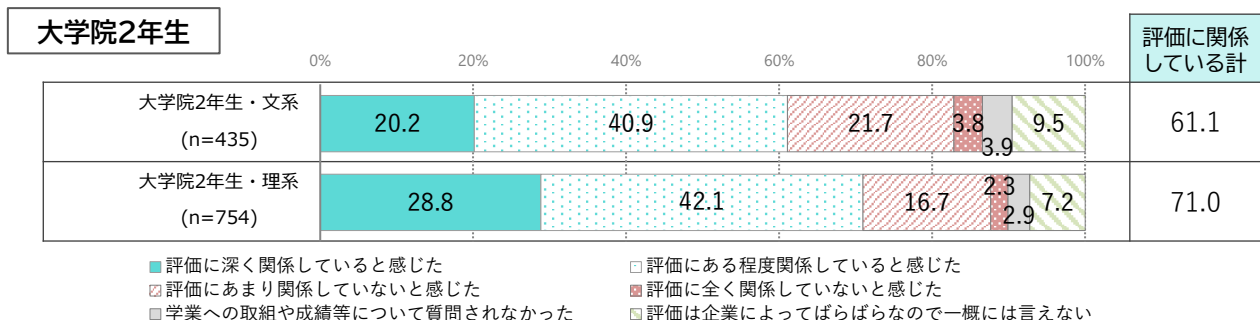
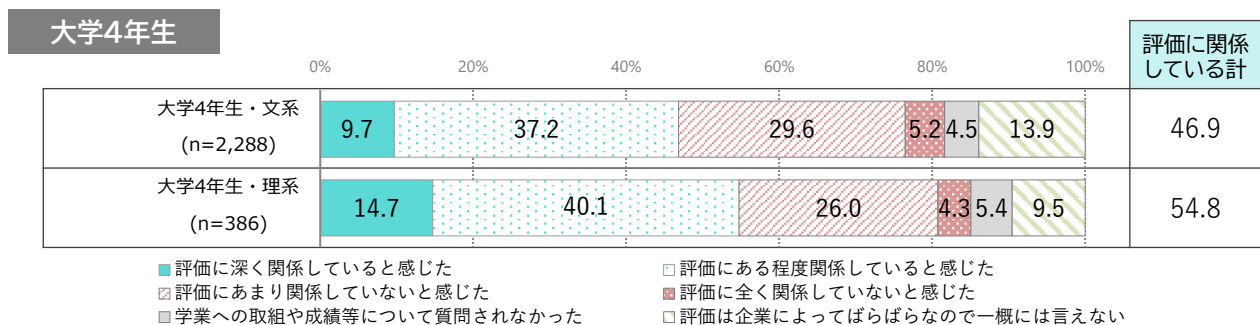
文系・理系別に、就職活動の面接や試験を受けるにあたり、履修履歴(成績証明書など)の提出がどの程度求められたかについて集計すると、大学4年生・大学院2年生ともに、「多くの企業で提出した」の回答割合は、理系の学生の方が高く、特に大学院2年生においてその差が大きくなっている。

また、採用面接において、研究・ゼミや専門分野などの学業への取組や成績等の質問を受け、その内容が採用選考の評価に関係していると感じたかについて、文系・理系別に集計すると、大学4年生・大学院2年生ともに、「評価に深く関係していると感じた」の回答割合は、理系の学生の方が高く、特に大学院2年生においてその差が大きくなっている。

### 【履修履歴(成績証明書など)の提出の状況】



### 【採用面接の際に学業の取組や成績等の質問を受け、評価に関係していると感じたか】

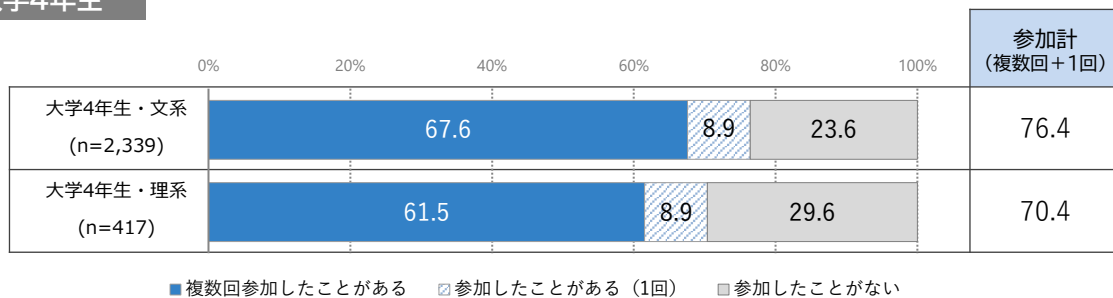


## ⑧文系・理系別のインターンシップと呼称されるものの参加状況

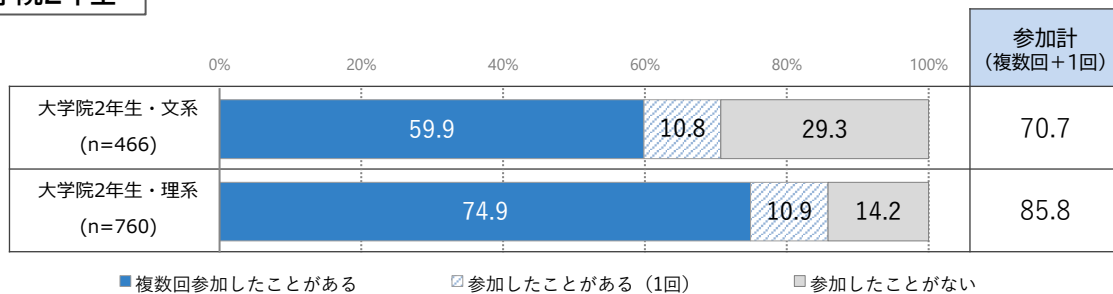
文系・理系別に、インターンシップと呼称されるもの※1の参加経験の有無について集計すると、「参加したことがある」の回答割合は、大学4年生では文系の学生の方が高く、大学院2年生では理系の学生の方が高くなっている。  
また、参加日数(参加したインターンシップと呼称されるもののうち、最長の日数のもの)について、5日以上に参加したことがある者の割合は、大学4年生・大学院2年生ともに理系の学生の方が高い。

### 【インターンシップと呼称されるものの参加経験の有無】

#### 大学4年生

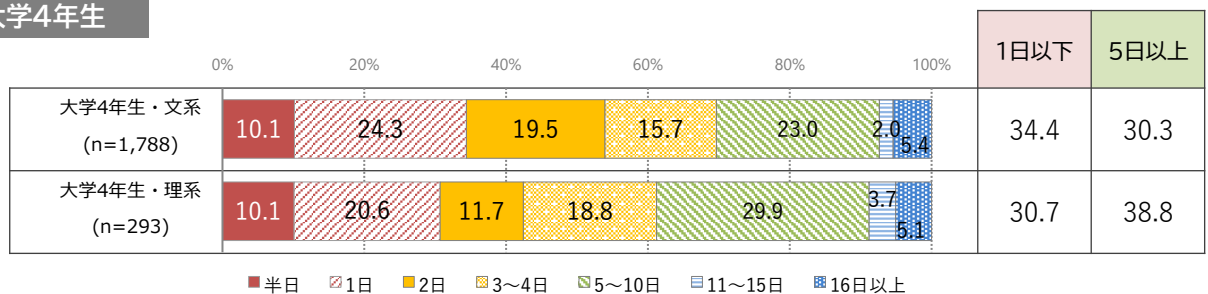


#### 大学院2年生

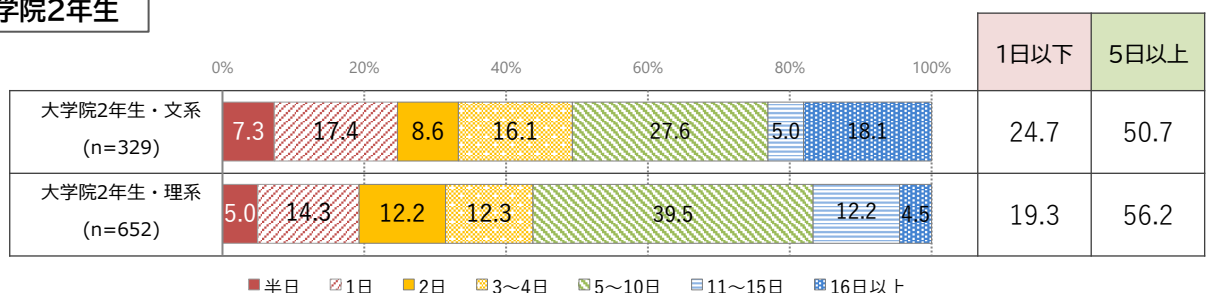


### 【インターンシップと呼称されるものの参加最長日数】

#### 大学4年生



#### 大学院2年生



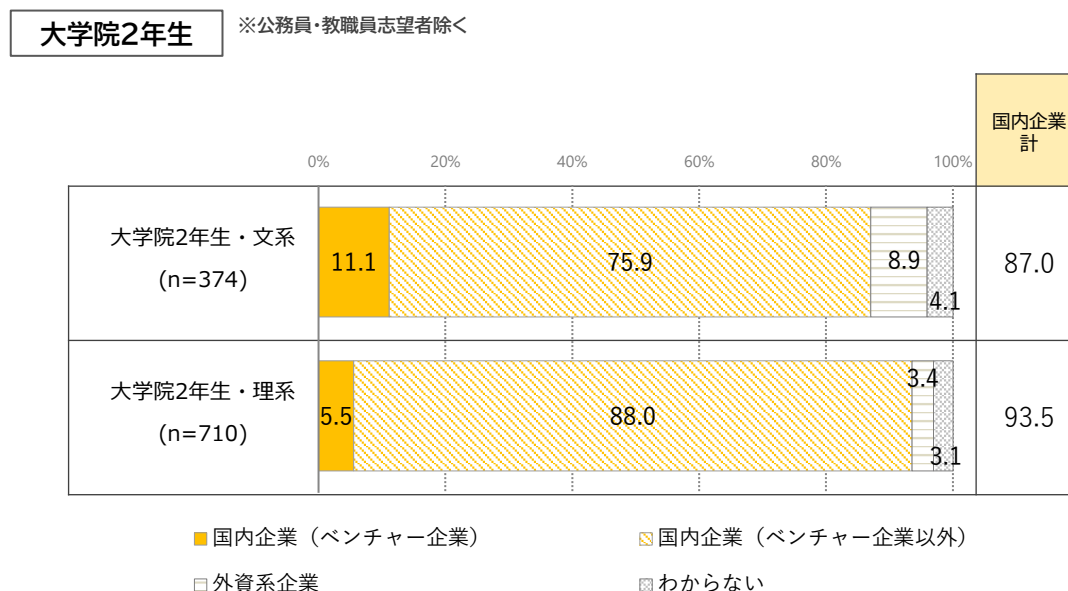
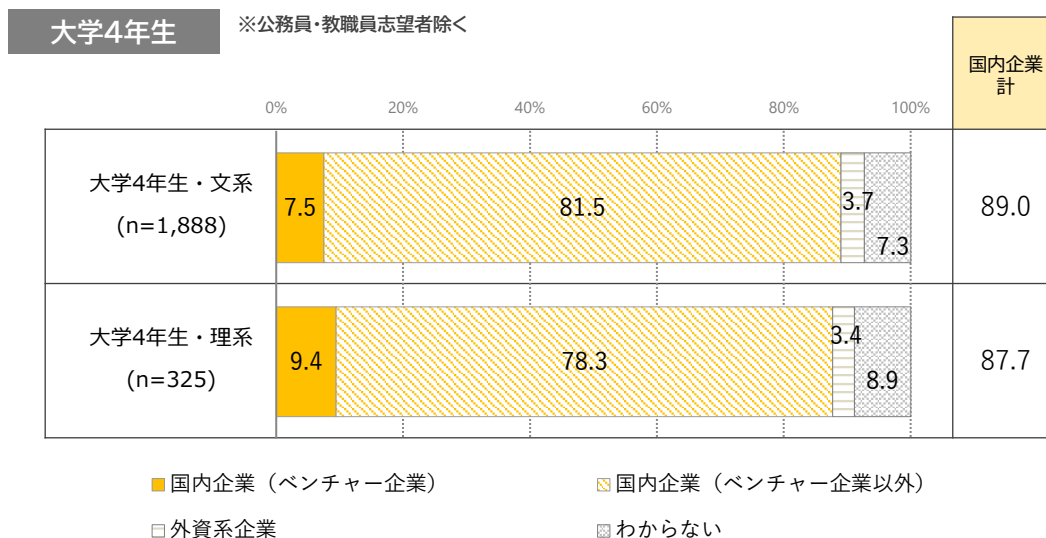
※1：2023年度調査より、定義変更に伴い、インターンシップについて「インターンシップと呼称されるもの」と提示している。

## (2) 文系・理系別の就職予定企業について

### ①就職予定の企業の種類

文系・理系別に、就職予定の企業が国内企業かどうかについて集計すると、大学4年生では、「国内企業（ベンチャー企業※1）」の回答割合は約1割で、「国内企業（ベンチャー企業以外）」と合わせると国内企業は約9割と、文系・理系で概ね同様となっている。

大学院2年生では、理系の学生の方が「国内企業（ベンチャー企業）」「外資系企業」の回答割合が低くなっている。



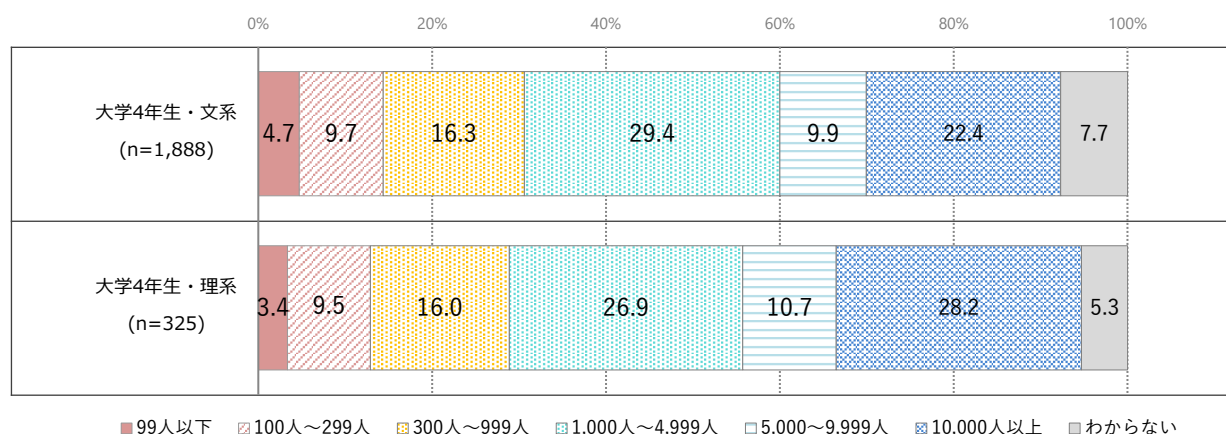
※1：ベンチャー企業については、2022年度調査では「ここでは、独自のアイデアや技術で新しいサービスやビジネスに挑戦している企業のこととする。」と案内、2023年度調査より「新興企業であって、独自のアイデアや技術で新しいサービスやビジネスに挑戦している企業」と案内した上で調査を行っている。

## ②就職予定の企業の企業規模(従業員数)

文系・理系別に、就職予定の企業の企業規模(従業員数)について集計すると、大学4年生・大学院2年生ともに、理系の学生の方が規模(従業員数)の大きい企業である割合が高く、特に大学院2年生に関して、理系の学生の方が「10,000人以上」の回答が占める割合が高くなっている。

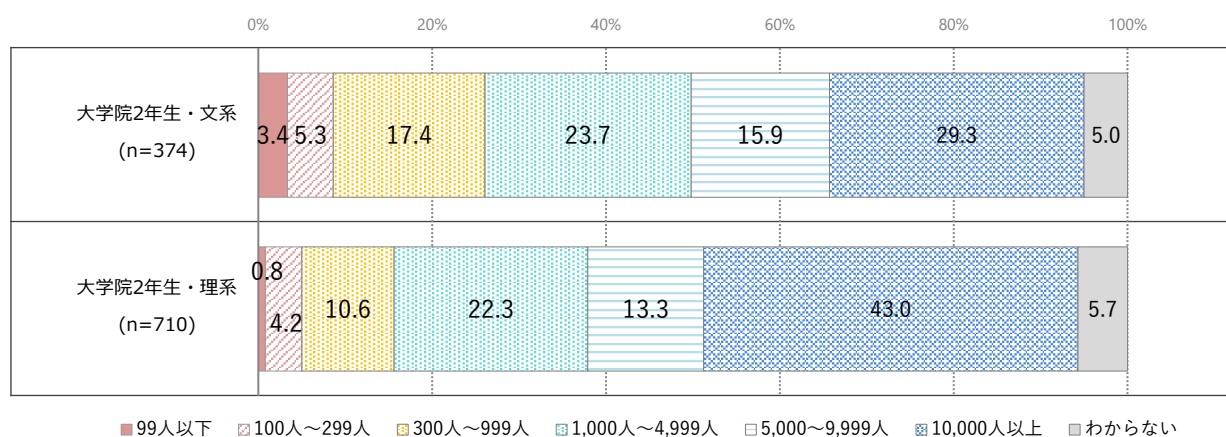
### 大学4年生

※公務員・教職員志望者除く



### 大学院2年生

※公務員・教職員志望者除く

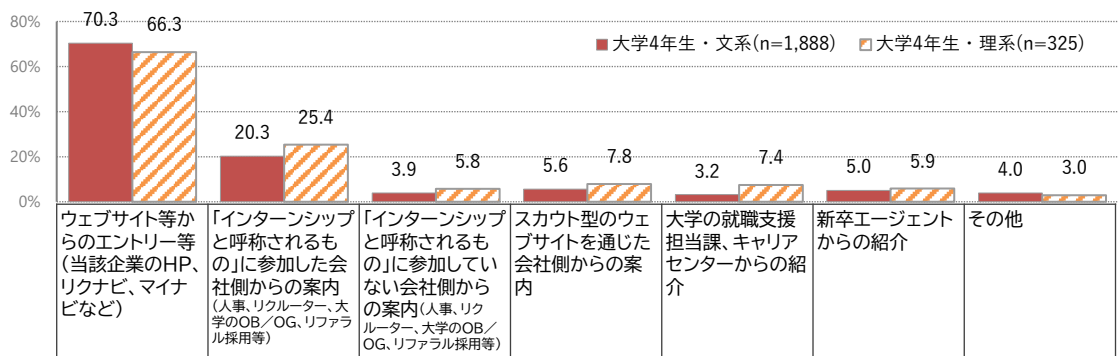


### ③就職予定の企業について採用試験・面接等を受けた経路

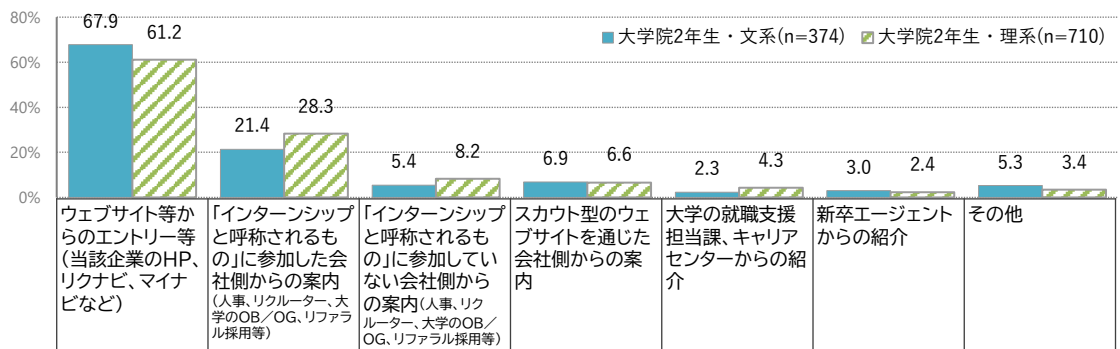
文系・理系別に、就職予定の企業に関してどのような経路で採用試験・面接等を受けたかについて集計すると、大学4年生では、文系・理系ともに「ウェブサイト等からのエントリー等(当該企業のHP、リクナビ、マイナビなど)」の割合が約7割と最も高く、概ね同様の結果となっている。

大学院2年生では、大学4年生と同じく「ウェブサイト等からのエントリー等」が文系・理系ともに最も高いが、「インターンシップと称されるもの」に参加した会社側からの案内(人事、リクルーター、大学のOB/OG、リファラル採用等)」の割合は、理系の学生の方が高くなっている。

#### 大学4年生



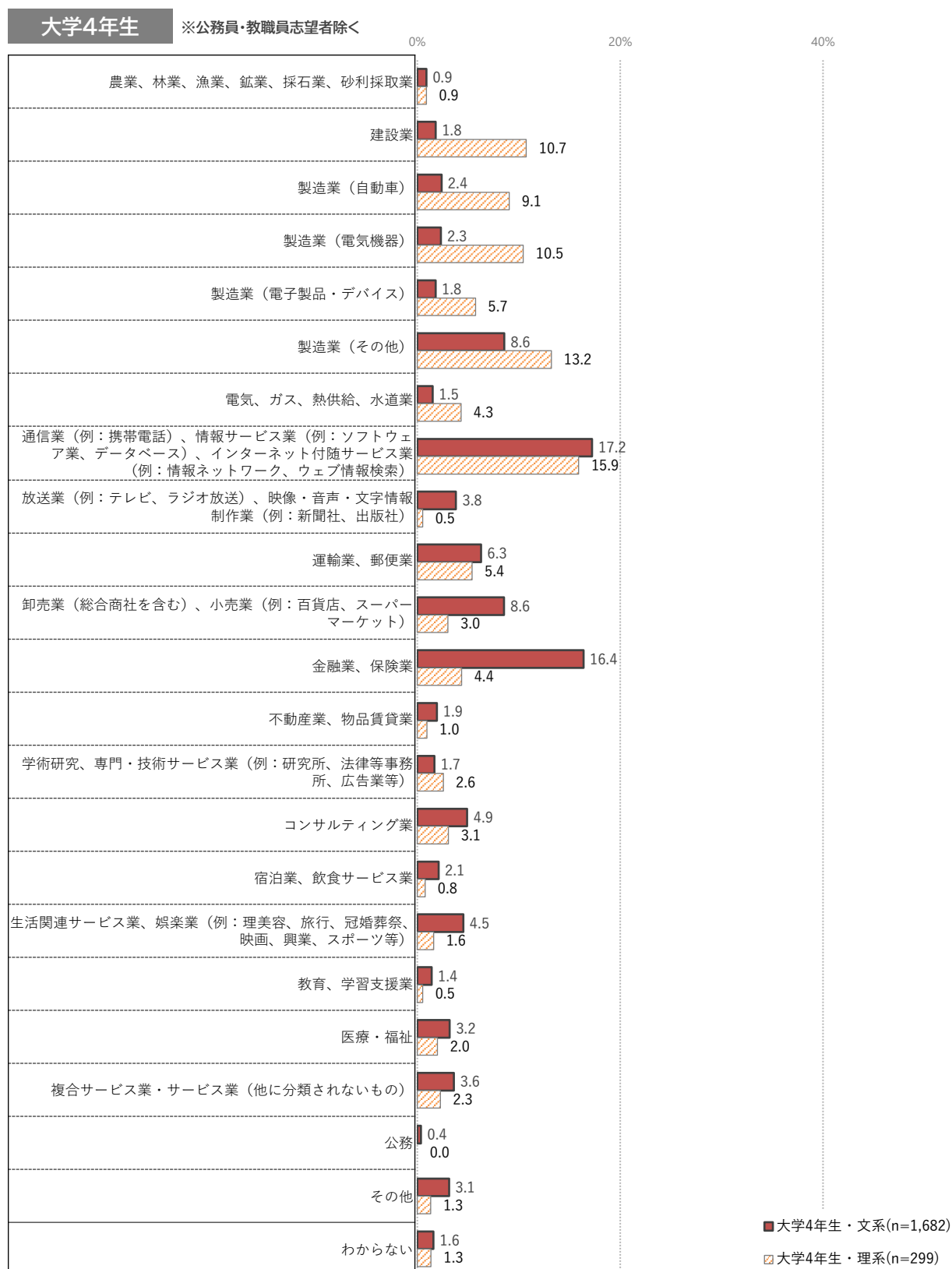
#### 大学院2年生



#### ④就職予定の企業の業界

文系・理系別に、就職予定の企業の業種について集計すると、大学4年生では、文系・理系ともに「通信業、情報サービス業、インターネット付随サービス業」が最も高く、約2割。

文系の方が高い業界について、差が大きい順に並べると、「金融業、保険業」「卸売業、小売業」「放送業、映像・音声・文字情報制作業」等。理系の方が高い業界は「建設業」「製造業(電気機器)」「製造業(自動車)」「製造業(その他)」等。

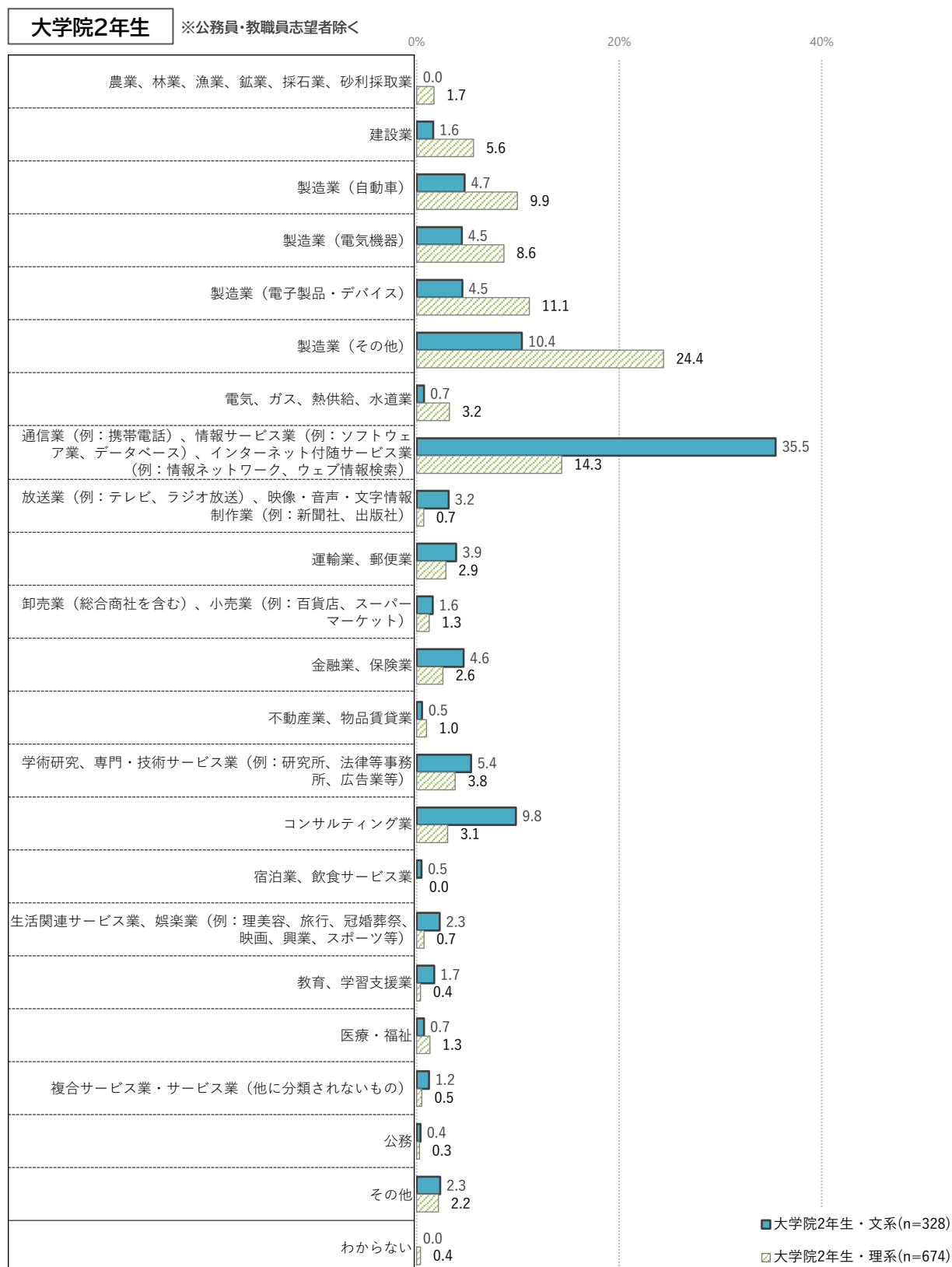




#### ④就職予定の企業の業界

文系・理系別に、就職予定の企業の業種について集計すると、大学院2年生では、文系で「通信業、情報サービス業、インターネット付随サービス業」が約4割、理系で「製造業(その他)」が約2割と最も高くなっている。

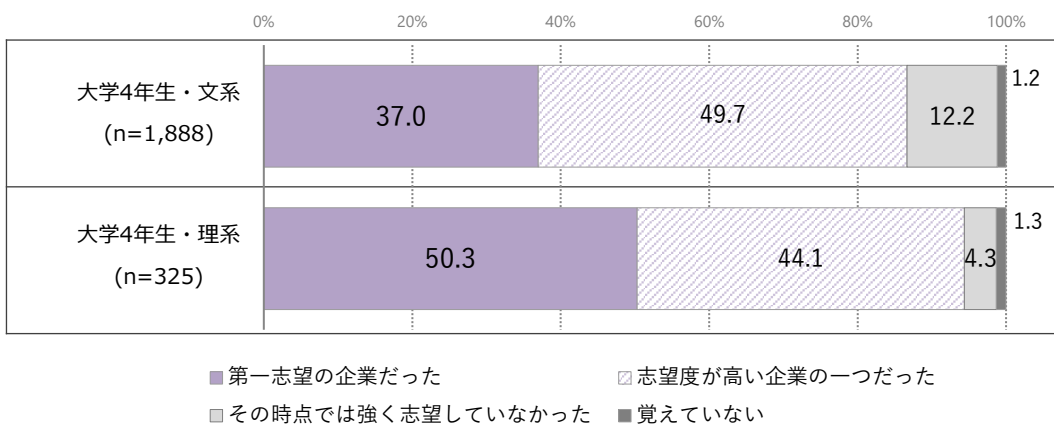
文系の方が高い業界について、差が大きい順に並べると、「通信業、情報サービス業、インターネット付随サービス業」「コンサルティング業」等。理系の方が高い業界は「製造業(その他)」「製造業(電子製品・デバイス)」「製造業(自動車)」等。



### ⑤就職予定の企業は第一志望だったか

文系・理系別に、就職予定の企業は第一志望だったかについて集計すると、「第一志望の企業だった」の回答割合は、大学4年生・大学院2年生ともに理系の学生の方が高く、特に大学4年生に関して、その差は大きくなっている。

#### 大学4年生



#### 大学院2年生

